

GMP教育訓練コース

GMP対応マネジメント講座

【製造管理者、QA担当者、GQP品質保証責任者等の育成】

～EUのQualified Person (PIC/SのAuthorised Person) 育成コースと同等レベルを目指します～

2026.04～2027.03

オンデマンド配信+グループワーク



東京理科大学薬学部は日本で初めて
GMPを体系的に学べる「GMP教育
訓練コース」を設置しました

各講座では産官学の“オールジャパン”体制を敷き、
医薬品等製造管理者、品質保証責任者及び品質保証
部門の職員等を対象とした講義を提供します。

本講座では、連携する富山県立大学との協力の元、
後援/協賛団体から国内屈指の講師陣をお招きします。
また、本講座では、GMPマネジメントのための基盤知識の
講義とケーススタディを行うグループワークを提供し、GMPマネ
ジメントの分野を深めるとともにGMPマネジメントに求められる
コミュニケーションスキルの向上も目指します。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。


【後援】厚生労働省/経済産業省(予定)/PMDA/レギュラトリーサイエンス学会

【協賛(五十音順)】ISPE日本本部/安定性試験研究会/医薬品・食品品質保証支援センター/
大阪大学大学院工学研究科(細胞製造コトづくり拠点)/製剤機械技術学会/日本遺伝子細胞治療学会/
日本医薬品原薬工業会/日本再生医療学会/日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会/
日本製薬団体連合会/日本PDA製薬学会

【大学連携】富山県立大学

東京理科大学 薬学部医療薬学教育研究支援センターHP

<https://sccper-tus.study.jp>

詳細はこちら 



Ver.13/2026.Apr.27

GMP対応マネジメント講座の目的

GMPに対応するマネジメント能力の向上を目指します。

★ GMP対応マネジメントのポイントについて、様々な観点から講座を実施します。

開催形態：eラーニング（オンデマンド配信）

★ 申込期間【全講座】2026年04月01日 0:00～2027年02月19日 23:59

【GM0701】：※2026年04月01日～ ※講師変更：檜山 行雄氏 → 齋藤 泉氏

★ 受講可能期間：講座購入後、入金確認日を含めて90日間

★ 受講料：
[1プログラム]

所属	一般	行政	東京理科大学		他大学		本学連携者	理科大薬学部 同窓会会員
			教職員・学生	社会人学生	教職員・学生	社会人学生		
マネジメント講座	4,000	2,000	無料	無料	2,000	所属業種で申し込み	無料	2,000

【受講方法について】

- ・申込みの際は、受講される本人の名前で申込みしてください。
 - ・受講料は1プログラムあたりの金額です。受講料の支払いをもって申込み完了となります。
 - ・受講可能期間は申込み及び入金後、**90日間**です。動画をすべて視聴後、確認試験を受験してください。途中で視聴を取りやめ、後日途中から受講いただくことも可能です。
 - ・**受講可能期間経過後の受講はできませんのでご注意ください。**
- ※動画の撮影及び保存、第三者への供与は固くお断りしております。

【受講証明書について】

動画をすべて視聴し、確認試験を受験した方に対し「受講証明書」を即日発行します。修了試験お申込みの際に必要ですので、マイページ「講座購入履歴」より各自ダウンロードしてください。

【Q&Aについて】講義受講後 Webで質問することが出来ます。文頭に質問先の講師名をご記入ください。

- ・質問：Web受付（06月末・11月末 締切）
- ・回答：Web公開（09月・03月 公開予定）

有用性が高い質問に回答いたします。
回答し兼ねる場合がありますことをご承知お祈りします。

【受講申込】 講座一覧のPN(プログラム No.)をクリックしてお申込みください。

事務局連絡先

東京理科大学 薬学部医療薬学教育研究支援センター GMP教育訓練コース GMP対応マネジメント講座一覧 【GM01～GM04】

プログラム*1	PN	演題/講師*2
		注意！★グループワークプログラムの開催順序が入れ替わっています。 (参照：p4,p5 グループワーク一覧表) ★対応するGMP対応マネジメント講座の受講可能期間にご注意ください。 (受講可能期間：申込み及び入金確認後、90日間)
品質保証を实践する者の責務と最近の関連規制について	2026 GM01	「品質を保证するために」 鷲見 裕氏③ 「グローバルQAの業務」 山口 浩氏① 「法令遵守や品質確保に向けた検討及び取組」 山本 剛氏（厚生労働省 医薬局監視指導・麻薬対策課 麻薬対策企画官 監視指導室長）
監査マニュアル/不正製造の観点から	2026 GM02	「GMP監査マニュアル」 伊井 義則氏④ 「特別監査：製造管理」 寶田 哲仁氏 [⑥収録当時] 「特別監査：品質管理」 青木 登氏⑥ 「紙記録のデータインテグリティに関する指摘事例紹介」 樋泉 美月氏（PMDA） 「電子記録のデータインテグリティに関する指摘事例紹介」 樋泉 美月氏（PMDA）
変更マネジメントと変更管理について	2026 GM03	「変更マネジメントについて」 高屋敷 均氏⑥ 「変更管理について」 青木 登氏⑥
製品品質照査とデータ処理（統計）	2026 GM04	「医薬品品質システムと製品品質照査」 蛭田 修氏（熊本保健科学大学：収録当時） 「製品品質の照査報告書記載例(厚労科研)の解説」 山口 隆弘氏④ 「統計的な手法を用いた製品品質照査におけるデータ処理や解析」 高平 正行氏③

東京理科大学 薬学部医療薬学教育研究支援センター GMP教育訓練コース

GMP対応マネジメント講座一覧

【GM05~GM12】

プログラム*1	PN	演題/講師*2
		<p>★グループワーク プログラムの開催順序が入れ替わっています。 (参照：p4,p5 グループワーク一覧表)</p> <p>★対応するGMP対応マネジメント講座の受講可能期間にご注意ください。 (受講可能期間：申込み及び入金確認後、90日間)</p>
品質リスクマネジメントとバリデーション	2026 GM05	<p>「品質リスクマネジメント（改訂版）について」 坂本 知昭氏⑧</p> <p>「バリデーション指針について」 蛭田 修氏（熊本保健科学大学：収録当時）</p> <p>「交叉汚染防止と洗浄バリデーション」 蛭田 修氏（熊本保健科学大学：収録当時）</p>
承認事項の確認方法・出荷判定	2026 GM06	<p>「QAの責務と日常の業務～欧州のQPの責務を参考に」 松村 行栄氏③</p> <p>「出荷判定の視点」 新井 悟氏①</p>
技術移転・開発情報・知識の入手の重要性	2026 GM07	<p>「※技術移転の概要と成否の要因」 齋藤 泉氏⑤</p> <p>※2026/04/01～※講師変更：檜山 行雄氏 ⇒ 齋藤 泉氏</p> <p>「知識管理」 賈田 哲仁氏（株式会社ファーマプランニング）</p>
試験室管理/OOS、OOT、安定性モニタリングを例に	2026 GM08	<p>「GMP対応 QC試験室管理」 小林 弘武氏②</p> <p>「OOS、OOT、安定性モニタリングを例に」 青木 登氏⑥</p>
医薬品品質システムの理解と品質文化醸成の評価指標について	2026 GM09	<p>「医薬品品質システム(PQS)について」 高屋敷 均氏⑥</p> <p>「品質文化とその醸成度評価」 毛利 慎一郎氏⑥</p>
逸脱管理とCAPAについて	2026 GM10	<p>「逸脱管理について」 中島 なつき氏⑤</p> <p>「CAPA（是正措置・予防措置）マネジメント」 相馬 淳也氏 [①収録当時]</p>
委託先管理/原料の供給者管理について	2026 GM11	<p>「委託先管理について」 青木 登氏⑥</p> <p>「原料の供給者管理について」 美濃屋 雅宏氏⑦</p>
コミュニケーションスキルの向上に向けて	2026 GM12	<p>「QAに必要なコミュニケーションスキルの向上と役割期待」</p> <p>末田 清子氏（青山学院大学国際政治経済学部）</p>

*1 プログラムについて

各講座の受講証明書発行及び修了試験受験資格取得のための要件について、櫻井研究室 ホームページ [GMP教育訓練コースのページ](#)に「受講の手引き」を掲載しております。必ずご確認ください。

*2 演題/講師について

事情により演題と講師を変更させていただく場合がありますので、予めご了承ください。
なお講師の派遣団体の凡例は下記の通りです。

- ①ISPE日本本部、②安定性試験研究会、③医薬品・食品品質保証支援センター、
- ④日本製薬団体連合会、⑤日本PDA製薬学会、<五十音順>
- ⑥東京理科大学 薬学部医療薬学教育研究支援センター 医薬品等品質・GMP講座
- ⑦医薬品添加剤GMP適合審査会、⑧国立医薬品食品衛生研究所 薬品部

グループワークの目的

GMPに対応するマネジメント能力の向上を目指します。
製品品質へのリスクやコミュニケーションスキルなど、現場で求められる
品質保証上大切な要素について議論しながら学ぶ少人数制の教育訓練です。

- ★ 受講にあたっては、それぞれのグループワークに対応するGMP対応マネジメント講座の受講が必須となりますので、ご注意ください。（例：GW05の受講にはGM05の受講が必要です）
- ★ 過去にマネジメント講座を購入した方で復習したい方や購入したが未視聴の方は、グループワークに対応するマネジメント講座を、グループワーク当日朝10：00よりグループワークと同じ会場（森戸記念館第3会議室）にて、無料でご視聴いただけます。
聴講希望の方はGMP対応マネジメント講座をお申込みの上、事務局へ連絡して下さい。
- ★ 修了試験の受験要件にグループワーク受講は含まれません。

事務局連絡先

- ★ 全11回の講座を1年間で無理なく受講いただけるよう、月1回の開催です。

【会場】 東京理科大学 神楽坂キャンパス森戸記念館 定員42名
東京都新宿区神楽坂4-2-2 JR「飯田橋」西口 / 東京メトロ「飯田橋」B3出口下車 徒歩6分
Map 都営大江戸線「牛込神楽坂」A3出口下車 徒歩3分

【GW02 - GW12】 申込期間：2026年04月01日 0:00 ~ 開催日の1週間前
【受講料】 受講料は1プログラムあたりの金額です。
事情により会場・参加者数を変更する場合があります。予めご了承ください。

所属	一般	行政	東京理科大学		他大学		本学連携者	理科大薬学部 同窓会会員
			教職員・学生	社会人学生	教職員・学生	社会人学生		
グループワーク	5,000	3,000	3,000	3,000	3,000	所属業種で申し込み	無料	2,500

【受講申込】 講座一覧のPN(プログラム No.)をクリックしてお申込みください。

プログラム	PN	開催日	演題／講師*	対応するGMP マネジメント 講座
医薬品品質システムの理解と品質文化醸成の評価指標について	2026 GW09	2026年 05月29日 13:00~ 17:00	「品質文化の醸成度評価」：毛利 慎一郎氏 ^R ・品質文化醸成度アンケートの作成 ・品質文化醸成のための活動計画の策定	2026 GM09
逸脱管理とCAPAについて	2026 GW10	2026年 06月12日 13:00~ 17:00	「逸脱管理とCAPA計画立案(QRMによる優先度付け)の作成」 ：高屋敷 均氏 ^R ・逸脱事例の作成と共有化 ・逸脱事例のCAPA計画立案(QRMによる優先付け)の作成	2026 GM10
変更マネジメントと変更管理について	2026 GW03	2026年 07月10日 13:00~ 17:00	「リスクアセスメントシートを用いた変更管理(案)の進め方」 ：毛利 慎一郎氏 ^R ・変更管理の不備事例から学ぶ ・特性要因図に基づく変更管理手順の改善	2026 GM03
試験室管理/OOS、OOT、安定性モニタリングを例に	2026 GW08	2026年 08月07日 13:00~ 17:00	「安定性モニタリングの処理事例」：青木 登氏 ^R ・OOSの初期調査リストの作成 ・OOSの拡大調査	2026 GM08

プログラム	PN	開催日	演題／講師* 注意！★プログラムの開催順序が入れ替わっています。 ★対応するGMP対応マネジメント講座の受講可能期間にご注意ください。 (受講可能期間：申込み及び入金確認後、90日間)	対応するGMP マネジメント 講座
品質リスクマネジメントとバリデーション	2026 GW05	2026年 09月11日 13:00～ 17:00	「QRMを用いたバリデーション計画立案」：高屋敷 均氏 ^R ・変更時のプロセスバリデーション計画の作成	2026 GM05
技術移転・開発情報・知識の入手の重要性	2026 GW07	2026年 10月02日 13:00～ 17:00	「技術移転に必要な情報の特定」：久下 幸泰氏 ^R ・技術移転の失敗事例の考察 ・技術移転の不備の要因把握と対応の作成	2026 GM07
承認事項の確認方法・出荷判定	2026 GW06	2026年 11月06日 13:00～ 17:00	「出荷判定の思考プロセスを学ぶ」：鳴瀬 諒子氏 ^T ・品質への影響をどう評価する？ ・出荷判定を支えるPQSを考える	2026 GM06
製品品質照査とデータ処理 (統計)	2026 GW04	2026年 12月04日 13:00～ 17:00	「トレンドグラフの作成と製品品質照査集計データの考察」 ：蛭田 修氏 ^R ・トレンドグラフの作成と考察 ・製品品質照査集計データの考察	2026 GM04
委託先管理/原料の供給者管理について	2026 GW11	2027年 01月15日 13:00～ 17:00	「委託先及び供給業者との取決め案の作成と監査計画の作成」 ：久下 幸泰氏 ^R ・取決め案の作成（試験検査機関と添加剤メーカー） ・監査計画書の作成（試験検査機関と添加剤メーカー）	2026 GM11
監査マニュアル/不正製造の観点から	2026 GW02	2027年 02月05日 13:00～ 17:00	「監査マニュアルを参考とした監査計画立案」：青木 登氏 ^R ・監査計画表の作成	2026 GM02
コミュニケーションスキルの向上に向けて	2026 GW12	2027年 3月05日 13:00～ 17:00	「コミュニケーションスキルの向上」：末田 清子氏 ^A グループワーク1・Thomas-Kilmann Conflict Mode Instrument (TKI) グループワーク2・課題A：事例研究「SOPを改善したい」 ・課題B：事例研究「自主点検はどこまで？」	2026 GM12

* 演題／講師について

事情により演題と講師を変更させていただく場合がありますので、予めご了承ください。
なお講師の所属先の凡例は下記の通りです。

A：青山学院大学 国際政治経済学部
R：東京理科大学 薬学部医療薬学教育研究支援センター 医薬品等品質・GMP講座
T：富山県立大学 薬学部

体系的なGMP教育訓練コース（社会人向けカリキュラム）



お問い合わせは→ [東京理科大学 薬学部 医薬品等品質・GMP講座 \(https://www.rs.tus.ac.jp/alljapangmp/\)](https://www.rs.tus.ac.jp/alljapangmp/)

※E-ラーニングは株式会社じほうが提供する“e-GMP”（東京理科大学 薬学部医療薬学教育研究支援センターが監修）の活用を推奨します。

（設置の背景）

2004年の薬事法改正で医薬品製造の全面委託が可能となり、製薬企業の製造販売部門と製造部門を切り離す分社化が進んだ結果、製造販売業者においてGQPで求められる製造所監査が出来る人材の不足が課題となっています。さらに2020年以降、ジェネリック医薬品企業等のGMP違反や不正問題が起り、医薬品の供給不安にまで影響が及び、また、ワクチン等の国内製造強化の動きもあります。

今後、国内の医薬品産業の活性化、健全化に向けては適切なGMP人材育成が必須です。この課題に対応するため、我々は、EUの合理的な仕組みであるQualified Person (QP) 制度で活用されているQP育成・資格取得コースを参考にしてGMP教育訓練コースの開講を進めてまいりました。

（コース仕様）

- (1) E-ラーニング（導入編、基礎編、実践編、分野別編）※任意⇒受講を推奨しております。
- (2) オンデマンド配信（GMP対応エンジニアリング講座、GMP対応マネジメント講座）
- (3) グループワーク（GMP対応マネジメント講座受講者対象）
- (4) 実技講座 ※任意⇒受講を推奨しております。

（主な対象者）

- 製造所の製造管理者やその候補となる品質保証部門（QA）等に従事する方
- 製造販売業者のGQP部門に従事する方
- 行政のGMP査察官
- これから製薬企業等でGMP、GQPの責任者、行政のGMP査察官を目指す学生
- 医薬品産業を支える施設・設備/機器関連企業や原材料メーカーに従事し、GMPについて深く学ぶ意思がある方 など

（修了証の発行）

現在、日本で医薬品製造管理者となるためには薬剤師資格が必要である一方で、薬学教育にGMPの講義がEUほど組み込まれていないため、本コースの役割は極めて重要と考えています。

必要な講義を受講し修了試験を受験していただくことで、修了証を発行します。

本コースを修了した方々が、それぞれの企業で適切なGMPを運用し、良品質の医薬品等の製造に繋がるよう活躍されることを期待します。

この東京理科大学のGMP教育訓練コースの取り組みに共感し、GMP対応エンジニアリング講座及びGMP対応マネジメント講座の後援、協賛をいただいた関係学会・団体の皆様に深く感謝申し上げます。

東京理科大学 薬学部医療薬学教育研究支援センター

医薬品等品質・GMP講座 教授 櫻井信豪